

2023年12月発行

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

きやづみ家

vol. 27



東大阪市の天然記念物に指定されている樹齢およそ 500 年の大木

日下のかや

特集 / 企画展示

日下のかや

—2023—

pick up!

押し花展 / 押し花教室

祭礼展

やさしい暮らし 昔にならう

歴史コラム

日下の嘶「布市春日神社と日下の石工小平次」

河澄家の自然 ナンバンギセル

旧河澄家 指定管理者 株式会社アスウェル

展示・イベントのご案内



展示・イベントのご案内

書道展

2023年
12月14日(木)
↓
2024年
1月14日(日)

日下の書家深川秀樹さんと生徒さんの作品を展示します。

新春書道体験

日時:2024年1月8日(祝)
10時～12時
場所:甲河堂家
講師:書家 深川秀樹氏
定員:10名(小学6歳以上)
料金:300円

手本は予め枚数種類ご用意しています。その中から選んで書いてください。自由にお書き下さい。

お申込みは2023年12月8日(金)午後より電話または封筒お問い合わせフォームよりお願いします。

■会場:甲河堂家
■料金:300円
■時間:10時～12時
■対象:小学6歳以上(保護者同伴)
■定員:10名(小学6歳以上)
■料金:300円(半山田名通)
■お問い合わせ:090-1234-5678
■封筒お問い合わせ:090-1234-5678
■お問い合わせ:090-1234-5678

展示・イベント

「書道展」

2023年12月14日(木)～2024年1月14日(日)

「立体切紙キリッタイを作ろう」

2023年12月10日(日)

「古民家で餅つき & リクリエーション」

2023年12月17日(日)

「新春書道体験」

2024年1月8日(月・祝)

「論語の素読会」

毎月第2・第4土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。



かゝすみ家

2023
Dec.
vol.

27

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

目次

04 特集 日下のかや -2023-

東大阪市の天然記念物日下のかやの現在について

06 日下の嘶 布市春日神社と日下石工小平次

布市春日神社と、かつてその石鳥居に名を刻んだ石工小平次について

08 イベントレポート

原始ハス見学会

切絵展 / いきもの工作

朗読劇雨月物語

古代体験会 はにわをつくろう

上田秋成展 / 紙芝居講演

近畿大学峰滝ゼミ REPORT そうめん流しと夏の工作

10 Pick Up

押し花展 / 押し花教室

祭礼展

やさしい暮らし 昔にならう（昔の暮らし）

12 イベントカレンダー



旧河澄家の自然

ナンバンギセル

南蛮煙管 / オモイグサ

ハマウツボ科ナンバンギセル属の寄生植物

スキのようなイネ科植物やスゲに寄生する一年草。葉緑素を持たないため光合成できません。茎のように見える花柄の先に淡紫色の筒状の花を横向きにつけます。名前の由来は南蛮渡来の煙管に花姿を見立てたものとされています。古くは万葉集で”思ひ草”として詠われた植物です。

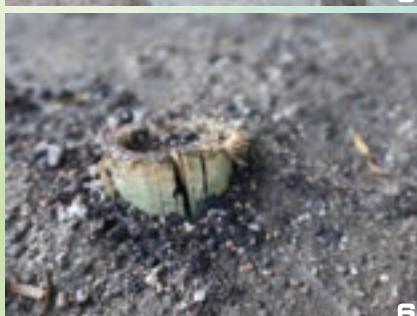
道の辺の
尾花が下の
思ひ草
今更々に
何か思はむ



道のほとりの尾花の下に、物思いにふけって、俯き咲く思い草のように、ひたむきに思っているのに、今更あれこれと思い煩うようなことはないと恋い慕う気持ちを詠んでいます。
『万葉集』作者不詳 卷十一二七〇

日下のかや

—2023—



かや（榧）の樹勢回復工事

1. 2. 3. クレーンや梯子を使って、枯れ枝の除去、剪定、薬液の塗布を行った
4. かやの根がはっている地面にドリルで穴を開ける 5. 竹筒を差し込み、エアレーションと施肥を行った
6. 前回の樹勢回復工事の竹筒

※1 諸戸北郎著『大日本有用樹木効用編：附・図説』、嵩山房、明38.10. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/842359> (参照 2023-01-26)

の『大日本有用樹木効用編』（※1）に記載があり、それによると榧の材は水に強く保存期間も長く、建築造船には最良の材で碁盤、将棋盤、将棋の駒、算盤珠等も作られたとあります。また榧の材を燃やすと蚊が逃げ出すためかやりの木が転化してかやの木となつたとか。実は十月末に熟し、脂の多い外肉は地中に埋めて取り、灰水に数日間漬けて乾燥させ生食にした、他には炒つたり、飴に混ぜたり、砂糖をかけてお菓子を作つたり、搾った油は食用や燈火用、理髪用に使つたとあります。さらに実は漢方では生薬・榧子／榧実と云い、寸白虫（寄生虫のサナダムシ）等を殺す薬効があり珍重されました。

水に強く保存期間も長く、建築造船には最良の材で碁盤、将棋盤、将棋の駒、算盤珠等も作られたとあります。また榧の材を燃やすと蚊が逃げ出すためかやりの木が転化してかやの木となつたとか。実は十月末に熟し、脂の多い外肉は地中に埋めて取り、灰水に数日間漬けて乾燥させ生食にした、他には炒つたり、飴に混ぜたり、砂糖をかけてお菓子を作つたり、搾った油は食用や燈火用、理髪用に使つたとあります。さらに実は漢方では生薬・榧子／榧実と云い、寸白虫（寄生虫のサナダムシ）等を殺す薬効があり珍重されました。

長い長い間、日下と河澄家を見守ってきた「日下のかや」ですが、近年では、樹勢の衰えが著しく、断続的に専門の業者による樹勢回復工事を行っています。今年度は、五月一五日に行いました。工事は、まず枯れ枝を剪定し、切断面に薬液を塗布します。薬液は殺菌保護被膜となって、新しい組織の形成を促し、病害の感染を防ぎます。さらに榧の木が根を張る地面にドリルで五〇カ所穴を開け、竹筒を差し込んで空気にさらし、肥料を入れて終了しました。

九月の初め頃になると、樹勢回復工事の効果もあってか、緑色でまるまるとした榧の実が落ちてくるようになります。

かやの実収穫と作業



かや (榧) の実をむく

①は収穫した榧の実。新鮮な緑色のうちに皮をむけばよいのですが、業務の合間に行うため、だんだんと茶色に…

②外肉を取り去った種

③新鮮な外肉だけ、真空パックの袋に詰めて冷凍庫へ

④茶色い外肉は廃棄

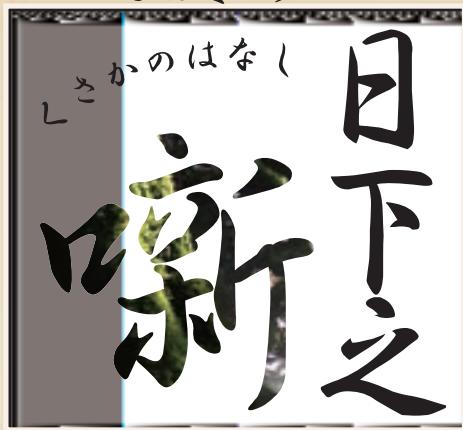


かやの花

ました。今年は、例年以上にしつかりとこの榧の実を活用しようということです、スタッフで拾い始めたのですが、たくさん落ちてくるので拾つても拾つても追いつかず、イベントで遊びに来た子どもたちが榧の実拾いを手伝ってくれたりもしました。

榧の実拾いの後は、できるだけ新鮮な状態で外肉（果肉）を取り去り、アーモンドに似た種と分けます。この種は先述のように、昔から生のままか、あるいは加工して食べたり、油を搾ったりして利用していました。新しいのは外肉の利用です。これまで地中に埋めるか、水に漬けるなどして捨て去られてきた外肉が精油として利用されていることを最近知りました。榧の実は新鮮な状態で外肉をむくと、柑橘系のさわやかな香りがしてとても癒されます。植物由来の芳香であるアロマはストレスの多い現代人に欠かせない癒しとして人気があり、その需要と相まって登場してきたのではないでしょうか。むいた外肉は直ちに真空パックに入れて冷凍保存しました。蒸留器を使つて、この外肉から精油を精製する予定です。種はもちろん搾つて榧の実油に。成功したら、どちらも希少な幻の精油と油です。丁度よい道具を現在探索中です。続きはまたの機会に。

—歴史コラム—



豊かな自然と文化の街、日下

生駒山麓～日下地域、河澄家の
過去から現在に至るまでのおはなし

【布市春日神社と日下石工小平次】

日下町の西隣りで、外環状線を更に西側に超えた恩智川に近い布市三丁目に布市春日神社は鎮座しています。祭神には春日四神（武

甕槌命（たけいかづちのみこと）、経津主命（ふつぬしのみこと）

、天児屋根命（あめのこやねのみこと）、比売神（ひめがみ））を

まつっています。江戸時代の慶安二年（一六四九年）に記録が焼失

して社の創祀は不明ですが、延享二年（一七四五年）に再建された

といわれています。布市春日神社は、明治政府の方針に従つて明

治五年（一八七二年）六月に、河内・和泉・大和を管轄していた堺

県の「河内国河内郡合社」政策により小祠廃併合が行われ、他の三

社（日下村天満宮社、池之端春日神社、石切劔箭神社上之社）と

ともに、石切劔箭神社に合祀され廃絶の憂き目にありました。しかし地域住民の強い請願により明治十二年（一八七九年）に布市春日神社はめでたく復社しました。復社するまでのおよそ七年間の間、布市春日神社は廃絶されていたにもかかわらず、その境内には今も江戸時代の燈籠、狛犬の台座などが残されています。参道には「當村

宮座九人」を刻む延享四年（一七四七年）の燈籠一対が並んでいます。拝殿前の狛犬

は新しくされたものですが、「奉寄進文政十三歳（一八三〇年）九月吉日氏子中」と

刻む狛犬台座が残っています。その台座と

狛犬が奉納された文政十三年は河内国においてもおかげ踊りが大流行した年で、多くの村でおかげ踊りを踊つて各家を廻り祝儀

を集め神社に奉納が相次いだとされており、隣村の池之端春日神社でも翌年天保二年（一八三一年）に「御影踊子中」と刻まれ

た狛犬が奉納され現在も残つていて、この布市春日神社でも同様におかげ踊りの奉納

が行われたものと推察されます。また拝殿に向かつて左手前にそびえる巨木は御神木

の長寿楠（ちょうじゅくすのき）で、樹齢



狛犬台座（文政13年）



参道の燈籠（延享4年）



布市春日神社拝殿

二百六十年とされ、当神社が再建されたとする延享二年（一七四五年）の頃から長寿楠はこの地で神社を見守り続けてきました。

現在の布市春日神社石鳥居は、令和三年三月に建之されたものですが、それ以前には宝暦五年（一七五五年）の年号と日下石工小平次（いしくこへいじ）の名を刻む鳥居が建てられていました。日下石工小平次の名を刻んだ石造物は、文政二年（一八一九年）製の石切劍箭神社の燈籠、文政五年（一八二三年）製の上石切町の道しるべ、弘化三年（一八四六年）製の枚岡神社神鹿など、これまでの調査で名を刻んだ合計十五点の石造物が確認されています。

現在の鳥居（令和3年）



旧鳥居（宝暦5年）
日下石工小平次作
『東大阪市の石造物3』より



御神木 長寿楠
樹齢260年



日下村石工小平次
生家跡碑

石工小平次の墓
(日下墓地)

日下石工小平次は、姓を石井氏といい、古いもので一七五五年製の布市春日神社の鳥居から新しいものでは一八六八年製の箕輪八幡神社燈籠まで百十三年間にわたる石造物を当地域に残しており、少なくとも三代にわたった製作と考えられています。石屋の多いこの地域の歴史を物語るようにその名を刻んだ数々の製造物を残した日下石工小平次の墓は日下墓地にあり、日下村石工小平次生家跡碑は日下町八丁目付近の駐車場脇に建てられています。

旧河澄家にて開催しましたイベント&展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

Kawazumi Report

原始ハス見学会

一〇一三年七月九日（日）開催



井上家を紹介する家昌氏



原始ハス池で撮影する参加者

井上家で管理されている以下の原始ハスは、六月二十四日に今年最初の花が開きました。それから二週間が経過し、ちょうど見頃で、見学ツアーの日を迎えることができました。

見学ツアーは、午前の部が十時開始で十九名、午後の部が一時開始で二十三名の方々にご参加いただきました。

最初に、旧河澄家をご案内し、次に井上家。井上家は大和棟を有する立派な古民家ですが、普段はお住まいのため見学はできません。今回も特別にご当主の井上家昌さんにご案内いただき、見学させていただきました。最後に原始ハス池を訪れ、美しい花を観察し、瑞々しい香りを吸い込み、皆さん、思い思いに撮影し、楽しんでいただけたようでした。



作品を紹介するサブローさん



いきもの工作を指導する磯田氏



豊臣秀次が客席の後ろから登場



最後に全員で舞台挨拶

サブローさんの切り絵展／いきもの工作

一〇一三年七月二二日（土）八月一〇日（日）開催

宮本順三記念館・豆玩舎ZUNZO/NPO法人おまけ文化の会からお借りしたサブロー（岡田三朗）さんの切り絵を一〇八点展示しました。サブローさんは、折る刃式黄色いカツターで有名な大阪に本社を置くOLFAの創業四兄弟の一人で、オルファカツターの素晴らしい使い手でもあります。八九歳のサブローさんが生み出した身近な自然—葉っぱや昆虫、魚といったユニークな切り絵作品は温かみがあり、訪れる人を楽しませていました。

会期中の七月二三日（日）には、豆玩舎ZUNZOの磯田武士氏指導による生きもの工作が開催され、各々、自由に描いた生きものモバイルや鳴きセミを作つて遊びました。

上田秋成が寛政十年（一七九八）に、この河澄家を訪れてから、今年で二二五年が経ちました。これからも上田秋成との縁を大切に、旧河澄家で雨月物語を上演できたら幸いです。

朗読劇雨月物語

一〇一三年九月一六日（土）開催

毎年、上田秋成作の怪異小説「雨月物語」の中から一話を選んで、あんがいおまる一座による朗読劇公演を開催しています。今年は、「仏法僧」を上演しました。仏法僧は、伊勢山で、宿が取れず靈廟の前で念佛を唱えながら夜を明かすとしたところ、非業の死を遂げた豊臣秀次と従者の亡靈と遭遇するというお話です。暗幕で覆われ静まり返った旧河澄家で、どこからともなく現れる亡靈と鬼気迫るあんがいおまる一座の演技に、観客は引き込まれているようでした。

上田秋成が寛政十年（一七九八）に、この河澄家を訪れてから、今年で二二五年が経ちました。これからも上田秋成との縁を大切に、旧河澄家で雨月物語を上演できたら幸いです。



旧河澄家HP
イベント情報

旧河澄家HPイベント情報ページ→ <http://www.kyu-kawazumike.jp/eventinfo/>
 Facebook情報ページ→ <https://www.facebook.com/kyukawazumike>
 Twitter情報ページ→ https://twitter.com/kyu_kawazumike
 Instagram情報ページ→ https://www.instagram.com/kyu_kawazumike/

古代体験会はにわを作ろう

一〇三〇年七月九日（日）開催



はにわ作りを指導する近つ飛鳥博物館の樋口氏



焼き上がったはにわ

古墳時代に大量に製作されたはにわとは一体何か？という解説を聞いていただいた後で、粘土で自由にはにわを制作していただきました。はにわは個性的かつ独創的な仕上がりで、部分が取れやすいものもあり、焼成のために近つ飛鳥博物館に持ち帰る際には、細心の注意を払っていたのですが、細かく表現するため、作りが弱くなり、乾燥した時点でポロリと落ちたものや焼成の際に落ちたものがあったと聞いています。それでも焼き上がったはにわはどれも素敵に仕上がりっていました。

大阪府立近つ飛鳥博物館から出張講師二名をお迎えして、毎回満員御礼、キャンセル待ち多数の人気の講座が今年も開催されました。



展示の様子



展示の様子

江戸時代後期の作家・歌人で雨月物語の作者として知られる上田秋成の生涯を描いた観念寺住職宮本直樹氏の「上田秋成ものがたり」の紙芝居展示を行いました。また河澄家に残された秋成自作の煎茶道具や、秋成が詠んだ和歌懐紙・短冊帖等の秋成ゆかりの品々のパネル展示コーナーも併せて設けさせていただきました。上田秋成は幼少の時病で両手の指が不自由になり、跡を継いだ実家も火事で失くしつつも、雨月物語を始め多くの著書を世に遺し、煎茶道に関する指導書を書いて煎茶の普及に多大な功績を残すなど、波乱に溌ちた生涯を、紙芝居で分かり易く解説した紙芝居画の展示に、来館者からは大変勉強になつたとの感想が聞かれました。また期間中の八月二十七日（日）には宮本直樹様から「上田秋成ものがたり」をはじめとする三編の紙芝居公演を上田秋成が訪れたとの記録が残る奥座敷の棲鶴楼で実施していただき、上田秋成ゆかりの当館としては非常に意義深い展示・公演となりました。



そうめん流しの様子

また、流しそうめんは、近大生がそうめん流しを担当させていただき、子供たちが流れてきたそうめんを取り、のちに一緒に食べていただくという形で行い、子どもたちはもちろん、お母様、お父様共に楽しんでいただきました。

また、流しそうめんは、近大生がそうめん流しを担当させていただき、子供たちが流れてきたそうめんを取り、のちに一緒に食べていただくという形で行い、子どもたちはもちろん、お母様、お父様共に楽しんでいただきました。

上田秋成展／紙芝居講演

一〇三〇年八月二五日（金）～
 九月四日（日）開催

江戸時代後期の作家・歌人で雨月物語の作者として知られる上田秋成の生涯を描いた観念寺住職宮本直樹氏の「上田秋成ものがたり」の紙芝居展示を行いました。また河澄家に

江戸時代後期の作家・歌人で雨月物語の作者として知られる上田秋成の生涯を描いた観念寺住職宮本直樹氏の「上田秋成ものがたり」の紙芝居展示を行いました。また河澄家に

近畿大学峰滝ゼミ企画による「流しそうめん & 夏の工作」を八月二十日に行いました。

近畿大学峰滝ゼミ
学
 KINDAI UNIVERSITY



工作をする近大生と参加者

pick up!

押し花展

今年も日下の原始蓮が美しく咲き始めた頃、六月二十二日（木）～七月十七日（月・祝）まで、押し花作家の來田容子さんと生徒さんによる押し花作品展を開催しました。

作品は、たくさんの押し花を使って絵画のように美しく洗練されており、それを構成する植物は、普段食べているニンジンやナス、キクナであったり、あるいは少し意外なものがあつたりして、見る者を楽しませてくれました。

今回は、作品解説も添付していただきたいので、こちらでも一点だけ、ご紹介します。來田容子氏が「ART」押し花コンペ2013で読売新聞大阪本社賞を受賞した作品「キクナとテッセン」（図1）です。

「息子が高校時代に「土部」なるものに入部し、部活動で農作物を作つては持つて帰つてきた頃、「キクナの花がめっちゃキレイに咲いとつてん！」と花束にしてくれた。とても感動したものだ。油絵風のデザインは全面押し花できており、背景はタカナやレタス。パステルで色付けて光と影を演出している。テープルとして描くのは桜の紅葉。花器は銀ボラ。花はもちろんキクナを中心で、テッ

センや原種チューリップを添えている。」

祭礼展

十月三日（火）～十月二十九日（日）

まで石切劔箭神社の秋季大祭の時期に合わせて、大宮顯秀氏によるミニチュア版布団太鼓やだんじり及び彫刻・刺繡のコレクションを展示する祭礼展を

背景や使われる押し花（花というか、野菜も含まれますが）の種類を聞くと、作品の中に、身近な野菜を探して、つい見入つてしましました。

今回の展示に関連して、六月二十五日（日）には、定員十五名で押し花アート体験を開催しました。参加者は、講師の來田容子さんが準備した色鮮やかな押し花の中から、思い思いに選んで配置し、透明樹脂（レジン）で固めてキーホルダーを制作しました。

会場では石切劔箭神社や、枚岡神社の布団太鼓に加え、だんじりのミニチュア版と、それらに施された軍記物などの精巧な彫刻や刺繡のミニチュア版など合計約六十点を提示させていただきました。



図3 来田容子氏



図1 キクとテッセン
(来田容子氏作品)



石切劔箭神社祭礼解説



祭礼展展示正面



だんじりのミニチュアと解説パネル



石切劔箭神社氏子地区布団太鼓ミニチュアと解説パネル



だんじりミニチュア

やさしい暮らし 昔にならう

畑より思い繋ぐ

今年は観測史上最も暑い夏になりました。気象庁は一九八九年の統計を開始した日本の平均気温偏差は過去最高を記録したと発表しました。猛烈な暑さが続く中、土の乾きも早く、葉がしょんぼり萎れたり、綿の蒴果（綿がふく前の大桃のような青い実）が落ちたり、朝夕の水やりに気を使う季節でした。

河内木綿と阿波の藍

旧河澄家の南西にある畑では、イベントや展示で使う季節の植物や野菜を育てています。立春から数えて八十八日目にあたる「八十八夜」の五月一日に、河内木綿の種蒔きをしました。季節の移り変わりの目安とする雑節のひとつで、この頃は春から夏の変わりめで気候が穏やかになり、昔から種蒔きなど農作業をはじめる目安とされてきました。生駒山を眺め、かつて綿花畑が広がっていたという地域の昔の暮らしに想いを馳せながら栽培しています。河内木綿は、綿花栽培を現代に復活・継承しようと取り組んでいる「河内木綿はたおり工房」中井由榮さんをはじめ、スタッフの皆さんにあたたかくご指導いただいています。今年は

阿波の藍の種も分けていただき、栽培・収穫しました。生葉はたたき染めに、乾燥させた葉は藍染めに挑戦しました。（たくさん収穫したはずなのに、

染めたい量の不足に気付き・乾燥葉も分けていただくというハプニングも）

十一月五日（日）開催「河内木綿糸紡ぎ・機織り体験会」では収穫した綿を綿繰り体験に、藍の葉で染めた木綿糸は機織り体験で活用、参加者の皆さんには畑で育てている河内木綿や、藍の葉や花の様子も見学していただきました。地域の繋がりのあたたかさと、大

切に育てて準備した植物素材のあたたかみは感じていただけましたか。

万葉集に詠まれた植物
今年は、はじめて出会いう植物もありました。奇妙で不思議なナンバンギセルの種子です。十一月展示「万葉の花写真展」、十一月十二日（日）「万葉の花講座」でお世話になりました華道家で、万葉の花研究家、『万葉の花』（青幻舎）の著者片岡寧豊さんより奈良にある五色椿や萩の花が咲く白毫寺と並んで咲く10/13
花柄9/16
奈良 百毫寺からいただいた種子4/8

鉢植えにしたススキ1kgも抱えて、大切に大軽に生駒山西麓にある旧河澄家に、迎さまの誕生日（花祭りの日）に片岡さんと一緒にふたつの鉢に分けて植えました。ナンバンギセルが好む日照条件のよい畑のある南側土壌前に並べました。二十四節氣白露の九月十四日に土から草の蠟燭みたいな花柄を伸ばし、九月二十七日に淡紫色の筒状の花が可憐に咲きました。調べると少し小さめな感じでしたが、十一月までに七本咲きました。ススキに寄り添い、俯き咲く不思議なナンバンギセルに魅了される栽培観察でした。

来年の種蒔き準備とともに、また春を待ちます。



ナンバンギセルにあう 観る育てる



河澄家の家紋



丸に三つ違い沢渡

2023年12月～ 旧河澄家 イベントカレンダー

沢渡は、池や田に自生する水草で、古くは貴族の車や武具の文様として用いられました。葉の形が矢に似てることから、別名「勝ち草」とも呼ばれ、武家の家紋として人気がありました。

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性がございます。詳しくはお問合せください。

立体切紙キリッタイを作ろう

12/10 (日)

モノづくりの町、東大阪生まれで、立体切紙【Kirittai】の創始者 大東守氏を講師に迎え、来年の干支である辰をモチーフとしたキリッタイ作品を作ります。



キリッタイ作品は、専用のキットを使った新しいスタイルのペーパークラフトなので、ハサミやカッターは使いません。お子様でも安心してご参加いただけます。参加費は500円です。

古民家で餅つき＆リクリエーション

12/17 (日)

旧河澄家の土間で杵と臼を使った本格的な餅つきを行います。ついた餅は、丸餅やあんころ餅にして、お持ち帰りいただきます。その後で、近畿大学峰滝ゼミの学生さんたちと一緒にスノードームを作ったりリクリエーションをして、楽しい時間を過ごしましょう。参加費は無料で、どなたでもご参加いただけます（3歳以上）。



参加無料

東大阪市指定文化財 旧河澄家

見学無料

所在地	〒579-8003 大阪府東大阪市日下町7丁目6-39
電話番号	TEL/FAX 072-984-1640
ホームページ	http://www.kyu-kawazumike.jp
開館時間	午前9時30分～午後4時30分
休館日	月曜日（祝日の場合は翌日）
入館料	祝日の翌日・12月29日～1月3日 無料
駐車場	5台（無料） 満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

◆アクセス方法

公共交通機関をご利用の場合

- ・近鉄奈良線「石切駅」より徒歩約20分
- ・近鉄けいはんな線「新石切駅」より徒歩約20分
- ・近鉄奈良線「東花園駅」または近鉄けいはんな線「新石切駅」より、近鉄バス「四条畷行き」または「住道行き」に乗車「南日下」バス停より徒歩約15分
- ・JR学研都市線「住道駅」または「四条畷駅」より、近鉄バス「東花園駅前行き」に乗車「南日下」バス停より徒歩約15分

マイカーをご利用の場合

- ・旧国道170号線「日下4丁目」交差点を東へ、約600m直進

◆指定管理者 株式会社アスウェル TEL: 072-939-7861
FAX: 072-952-4340

URL <http://www.asuwel.co.jp>
E-mail mail@asuwel.co.jp

書道展

12/14 (木)

～2024年
1/14 (日)

ここ日下の書家深川秀鳳さんと生徒さんの作品を展示します。見学は無料です。

会期中の2024年1月8日（日・祝）には、深川氏を講師に迎え、2024年のカレンダーに文字を書く新春書道体験を行います。予め用意した手本から文字を選ぶか、あるいは手本なしでご本人の自由で書いていただけます。新春書道体験の参加費は300円です。

見学無料

論語の素読会

毎月
第2・第4
土曜日

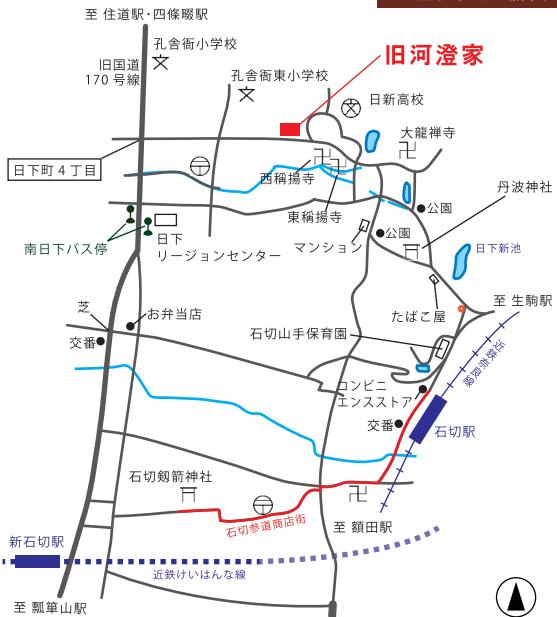


声に出して文字を読む「素読」。

素読は、江戸時代の寺子屋で活用されていた学習方法でした。素読で読む文書として中国の古典「四書」がよく使われています。その中のひとつに「論語」があります。「論語」は、孔子とその弟子の中でも優れた人物たちの言語をまとめた書物で、心を打つ章句が詰まっています。古来から大切にされてきた生き方や考え方を学びませんか。

参加無料

旧河澄家周辺図（詳細）



株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認証を取得しています。



JISQ9001:2015(JISQ9001:2015)/全事業所
JISQ14001:2015(JISQ14001:2015)/全事業所
建物総合清掃保全管理・施設保守管理・建物物
・衛生管理・人材派遣・警備保守・指定管理



20000775